

籐・竹タイル床材



1 床面の中心点及び基準線の設定

床面の中心点を求め、基準線を線引き用墨などで引きます。

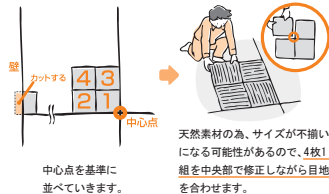


2 商品を現場に仮敷きして確認

商品を市松敷きで仮敷きし、必要に応じてカットします。



仮敷き確認時のポイント



3 必要に応じ商品をカットिंग

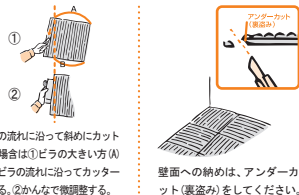
カットは表面から行います。サイズの微調整は、かんんで行ってください。



ピラの流れに沿ってカットする場合はカッターナイフを使用。

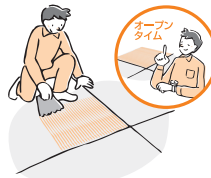
ピラの流れに逆らってカットする場合はのこぎりを使用。

カットिंग時のポイント



4 接着剤の塗布

基準線に沿って接着剤を専用コテで床面に塗布し、オープンタイムを充分にとります。(下地・気温によってオープンタイムが異なってきます)



タイルの敷き方について

市松敷きで施工して下さい。籐や竹むしらのピラは同一方向ですと滑って転ぶ危険性があります。また、タイルのタテ方向とヨコ方向の伸縮のバラツキを目地で調整します。

施工前にタイルが山型(A)にソリが出ている場合

梅雨時期などの多湿時には、まれに山型のソリが発生する場合があります。その場合はヒーターやドライヤー等で乾燥するとクセが取れ、平面になります。また手でクセを直し、平面にすれば施工しやすくなります。



5 商品の敷きつめ

仮敷きした順序で、基準線に沿ってタイルを一枚ずつ強めに突き合わせながら敷きつめていきます。



施工前にタイルが谷型(V)にソリが出ている場合

乾燥時期などには、まれにわずかな谷型のソリが発生する場合があります。その場合は濡れ雑巾等で加湿するとクセが取れ、平面になります。また手でクセを直し、平面にすれば施工しやすくなります。



6 施工後の圧着・養生

施工後は必ずローラー(30kg~40kg)で圧着接着し、時間をあけて再圧着してください。



ご注意いただきたいこと

施工時の段差について

施工時、タイルとタイルを突き合わせた時に、段差が発生する場合があります。段差が出た場合、タイルの角をペーパー等で面取りしてください。また、下地が平面でないで段差が出ます。

ラバーバックタイルについて

ラバーバックタイルは置き敷きが可能です。大きな面積の現場や、ズレ浮きが発生する場合は接着剤で固定してください。

仕上りの良い施工のために

塗布量が少い時や、ローラー圧着が少ないと、ふくれや浮き上がりが生じる恐れがありますので、必ず手順に従って施工してください。